

図書館だより

ノートルダム学院小学校

もうすぐクリスマス

2017.12.01 (金)

No.8



12月になりました。2017年も残り1か月です。この1年間、いかがでしたか。日々、たくさんのでき事があり、立ち止まり、考え、時には乗り越え、成長して

きたことでしょうか。そんな毎日の中で、あなたはどれだけの本と出会うことができたか。また、どの本が一番心に残りましたか。

図書館には『子どもたちにこの本をぜひ読んでほしい!』という先生方の思いがたくさん詰まった『ND 読書100選』もまとめて置かれています。全部

読み終わった人やたくさん読めた人た

ちもいますね。自分の幅を広げるため

にも、あなたの好きな本やお家の方や

先生方にすすめられた本を、広く深く、

読んでほしいと願っています。



家族をテーマにした本を集めました

図書館に入ってすぐ右手のボードに、

『家族』をテーマにした本を入れました。

『はなちゃんのみそ汁』・・・乳がんを患う千恵（2008年33歳で死去）の闘病とその最中に出産した娘のはな、夫の信吾の生活を綴ったブログ『早寝早起き玄米生活（ハンドルネーム：六本松さくら）』の書籍化作品で、文藝春秋より2012年に出版された。千恵の死後も母に教わったみそ汁を作り続ける娘・はなのエピソードを含む。



『パパが宇宙をみせてくれた』・・・ウルフ、宇宙をみにいこう。おまえもずいぶん大きくなったからねーパパにつれだされたウルフですが、宇宙ってなにかまだわかりません。2人は手をつなぎ、白い息をはきながら、秋のおわりの澄んだ空気の中を歩いていきます。夕焼け空が、少しずつ星空に変わって……。少年がみた初めての「宇宙」。そして、パパとの時間。やさしく、清々しいストーリーを、色鉛筆の繊細なタッチで描きます。

『ママがおばけになっちゃった!』・・・ママは、くるまにぶつかって、おばけになりました。「あたし、しんじやったの?もう!しぬときまでおっちょこちよいなんだから!」とつぜん、〃おばけ〃になってしまったママ。いちばん心配なのは、4歳になる息子のかんたろうのことです。よる、12時をすぎると、かんたろうの部屋に現れて……。生まれてきてよかったこと。いいところも、ダメなところも、かぞえきれないくらいの「好き」でいっぱい。ママは、これから生きていくかんたろうを励ましながら、じっくりと話をします。かんたろうも、ママへの思いを伝えながら、ちゃんと前を向いていきます。おもわずクスッとわらってしまう、でも、ホロリときてしまう。「このこ、わたしがいなくなったら、どうなっちゃうの?」親子なら誰でも抱いている大切な気持ちが、ぎゅっと詰まった絵本です。

『モーツァルトはおことわり』・・・世界的バイオリニスト、パオロは決してモーツァルトを演奏しない。その理由は、ナチス強制収容所の悲劇とつながっていた。音楽を武器に戦争を生き抜いた人々を描く。

『かあちゃん取扱説明書』・・・ぼくんちで、一番いばっているのはかあちゃんです。今朝も朝からガミガミうるさくって、ぼくはハラがたちました。かあちゃんにいたいのは、何日も同じごはんをつくらないでほしいです。さいごに、かあちゃんはすぐ「早く」っていうけれど、ぼくが「早く」っていうとおこるのは、やめてほしいと思います。……ぼくの作文を読んだ父ちゃんは大笑いして「かあちゃんはほめるときげんがよくなるんだ。とにかくほめること。パソコンもビデオも扱い方をまちがえると動かないだろ、それと同じさ」扱い方! そうか、扱い方さえまちがえなければ、かあちゃんなんてちょちょいのちょいだ!

哲哉はこうして、かあちゃん取扱説明書を書きはじめたのだが…。





12月の図書の貸し出しは**13日（水）**までです。

返却は**18日（月）**までとします。

学級文庫は**15日（金）**までにお返しく下さい。

その際、ワゴンの清掃を子どもたちとしておいて

いただくとありがたいです。また、本の返却

忘れが無いようにお声掛けをお願いします。

